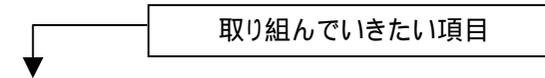


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をホームのみやすいところに明示し、朝礼時に唱和し、地域密着型サービスの理念に沿って日頃努力している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、出勤者全員が「あすなるホームの理念」を唱和し、理解を深めている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会に加入、運営推進会議及び家族会を開催し、家族や地域の人々に理解してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や掃除の時、近隣の方に会った際にはホームに立ち寄ることを勧める等している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のクリーン作戦運動等に参加したり、利用者様を交え、ご家族と2ヶ月に一度の運営推進会議を開催している。	すでに実施してはいるが、行事などの際にもボランティアの方々を招いて、事業所としても地域との交流に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>グループホーム、デイサービスより地域に向けて介護相談を受けたり、訪問する機会を設けている。また月に一度営業として地域に出掛け、事業所の存在を意欲的にアピールしている。</p>		<p>地域の高齢者や高齢者を抱える世帯に向けて回覧板や分かりやすいパンフレットを準備している。見学者に対しても分かりやすいパンフレットを提示している。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>勤務員全員が自分のこととして自己評価に携わり、それぞれ自己評価し、その携わりの中で反省すべきこと、継続すべきことをしっかりと受け止め、サービスの向上に努めている。</p>		<p>外部評価を実施する事により、具体化された反省すべき点を各自しっかりと把握し、改善するよう努めている。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議実施にあたり、事前に職員のサービスへのあり方や疑問を話し合い、会議に持ち込み、サービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議が行われることによって、参加された方々からの視点から気付いたことを話し合い、サービスのあり方を再認識する。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>救急講習、防災訓練に積極的に職員が参加する一方、市からの委託の「ふれあい大学」の受講者との話し合いに参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>介護保険相談員と利用者様がコミュニケーションを取る事により、利用者様の意見を把握し、サービスの向上に努めている。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>第8包括支援センターで開催された「成年後見制度」に職員が参加し、その後全職員に教養指導。グループホームの家族から後見人などの相談を受けるなど、教養を活用している。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢虐待防止に関するアンケートへの回答を日頃より意識し、各施設内での全体会議でも取り組み、認識と虐待防止を心がけている。</p>		<p>全施設内委員会で3月に勉強会を行った。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族の面会時、説明を行っている。また、家族からの質問に対しても説明をし、理解をいただける様努力している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見などを聞き、職員がカンファレンスを行い対応。又、生活相談員やボランティアの協力もあり、コミュニケーションを通じ意見の交換をできる機会があり、アドバイスも受けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、様子等を個々に連絡し、定期的に新聞を発行しており、ホーム内の様子や職員の事も報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置とアンケート調査も行っており、家族会で報告と意見の交換の機会を設けている。それらを今後に反映させている。</p>	<p>今後も意見箱、アンケート調査、家族会を続ける事により、意見などを把握し改善していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議や主任会議での議題にあげ話し合う機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニット間の応援を受けたり、行事の時は職員の人数を確保できる様、勤務表にも配慮している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>他施設とお互い連携を取り、協力を行っている。利用者への影響も考え負担とならないよう職員数を確保している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネはケアマネ研修や包括支援センターの会議に出席し、職員も事業所での勉強会、ミニカンファレンスでの勉強会に各自で出席する等スキルアップに努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネが出席した包括支援センターでの会議にて、出席者の中での同業者との関わりが少しある。		内覧会時に同業者の見学をしているが、今後随時見学や意見交換をし、職員の悩みの解消や技術のスキルアップを図って生きたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安会(忘年会)の開催。利用者の外食イベントに同伴出席することにより、少しストレスが軽減している。		休憩所を広くし、ゆっくり休める場所を確保する。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	あすなるグループ全体の事例発表が年1回あり取り組んでいる。他研修に参加し、報告書を作成し、職員が参考にする等取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調の際に求めている事などを伺い、その後もコミュニケーションを通して伺い、受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、様子を伝え又家族からの質問にも納得いただける様説明する等積極的に情報の交換に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時での家族からの相談は、その都度ミニカンファレンスを催して必要な要望に対処している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用からグループホームに入居を希望された方がおり、慣れていただける様に入居前よりグループホームでのコミュニケーションを行い、雰囲気に馴染めるよう取組んでいる事例がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアプラン作成時、アセスメントを基盤にして何を望んでいるか、どう生活がしたいのか、どうしたら楽しい生活ができるのかを学び、作成されたプランを基にケアをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時において、利用者様の体調・過ごし方等の様子を伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認定調査の記録を把握し、面会時において家族より気付いた点や要望を聞き、またこちらからも家族の様子を聞き参考にして支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩、神社のお参りやドライブ等に行き、また、なじみのお店への買い物などを行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフ同士で常に話し合い、利用者様同士が良好な関係を作れるよう努めている。問題が生じれば席を替えたり居室の変換を行い、各利用者様が孤立しないよう気遣っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>介護サマリー等で情報を提供し、いつでも相談を受け付ける窓口を設けている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプランを立てる際アセスメントをしっかりと行い、その人に何が必要か、何を望んでいるかを把握し利用者様の願いを尊重して各担当が働きかけている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の実調、家族同伴の受診、家族の面会時の利用者様とのコミュニケーションの中から把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>バイタルチェック、コミュニケーション、訴えの中から利用者様の有する力を総合的に把握している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様、家族のニーズと専門的立場から真のニーズを求め、利用者本位のケアプランを立て、利用者家族に同意を得ている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し及び急激な変化に対応するケアプランの作成にあたっては、主治医の意見を聞きながらケアカンファレンスを行い、ケアプランを作成し、利用者家族の同意を求めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日にケアや様子等を介護記録に記載。その記録を基に基本情報を共有し、ケアプランに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービスでのゲーム等に利用者様が参加して楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや月一回の介護保険相談員の訪問、運営推進会議でも地域の方との話し合いを行い協力を得ている。また、消防訓練や講習などを行い連携を取っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	年3回、他のケアマネジャーや包括支援センターでの会議を開催し、意見交換を行い、ご本人の意向や必要性に応じて支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	年3～4回会議を開催し、権利擁護についての勉強会を行い、かつケアマネジメントについても包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診があり、その際に問題のあることについて受診時にきめ細かく相談している。指定の往診の他に利用者様、家族の希望により馴染みの病院にも受診できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	不穏、周辺行動などの悩みのある家族にとっては地域の専門医、しょうわクリニックや中村病院などの受診により問題解決に努めている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設長が看護職であり、毎日の健康管理について普段の状態や個別の状況をよく把握しているので即応体制が確保されている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	完全看護、又そうでない場合も家族及び医療関係者による情報提供、退院に向けた施設長と病院側の相談を行っている。提供された情報をもとに帰所後のケアも展開している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期に家族とスタッフ及び施設長を交えた話し合いを行い、病院側との意見交換も進んで行っており、そこから見出された方針を全スタッフで共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者様が、その人らしく、より良く生活を送れるよう、病院や時には家族にも協力していただき、変化に備えている。チームとして話し合いを行い、検討を重ねていくことで「できること・できないこと」を見極めていく。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方は環境の変化によるダメージが非常に高い為、それを少しでも軽減できるよう十分な情報交換を行い、入所前と同等の生活ができる様心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に配慮して対応している。各々の個人情報を扱う時は細心の配慮の元、個人のプライバシーに何らかの損傷が入らないよう全スタッフで注意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員とのコミュニケーションの機会を持ち、処置やりハピリを行いながら、本人の思いや希望等を伺っている。希望等はケアプランへ取り入れ支援を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の気持ちや意向を大切に、入浴や買い物等その日の会話の中でくみ取り職務に当たっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>洋服のコーディネート等利用者様の意向も聞き、身だしなみに心がけている。訪問の理容・美容を定期的に行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様の好みをあらかじめ把握し、食事を楽しく出来るように配慮している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嫌いな食事を個人別に把握し、食卓には出さないように業者と話し合っている。好きな物については家族から差し入れしてもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表により個人別に把握し、水分、運動の実施に気をつけている。便は服薬でコントロールもしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴チェック表により漏れのないようにしている。更に入浴時間帯についても入りたい時間、特に夕方にも入浴している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>休みたい時にはいつでも休めるようにしている。夜間帯は1時間毎の巡視をし見守りをして安心して寝てもらっている。どうしても眠れなかった場合は医師、看護師(施設長)と相談し眠剤の使用も考えている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居時のアセスメント、家族の面会、病院の診察同伴等で生活暦等利用者様の情報を共有し、その利用者様に合った役割、楽しみを考えて実行している。</p>		<p>周辺の散歩、駅前のスーパーや近くの道の駅への買い物、回転寿司での外食等を実施している。 洗濯物たたみ・干し、自室の掃除など出来ることを手伝ってもらっている。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣い帳により収支を確認し、買い物や特別な食事等で使用する時はいつでも使用できるようにしている。ホームで大金は管理し、使用の際は都度出し入れしているが、小銭を身近に持っている利用者様もいる。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の体調や気候に合わせて、スタッフが数人ずつに分かれて散歩や買い物に出掛けられるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>普段行けない外食等スタッフと共に楽しい雰囲気での外出などを計画したり、ご家族に協力していただき積極的に外出の機会を作ったりしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった時、ご自宅等に電話をかけていただいている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、訪問しやすい雰囲気づくりをするようスタッフが十分に気をつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ同士、身体拘束について正しく認識しており、身体拘束のないケアを実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日勤者は朝の掃除機をかける時に居室の窓の鍵をはずし、(冬期においても)室内の換気及び窓の開放をしてお見守りもしながら常に日中は鍵をかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者全員の把握をする為、ホーム中央に位置し、把握に努めている。夜間は一時間毎の巡視を励行している。常に利用者全員の行動を頭に入れ仕事をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、薬物等は常に決められた場所に保管し、常に把握できるようにしている。趣味で針やハサミ等を使用する時は常に見守り終了時は点検して物品の確認を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ全体で勉強会を開き、それに参加することで知識を高めている。また年に一度は防災訓練をプロの元で学び、非常時の事故防止の意欲を高めている。又各人の身体能力に合わせた考え方を備えるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署の指導により救急救命訓練を行っており、応急手当や初期対応の訓練で急変や事故発生時に備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行っており、運営推進会議で報告を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員の全体会議で抑圧についての勉強会を行い、対応している。家族にも説明と話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定を行い、体調の変化や異変のある時は看護師と情報を共有し病院受診などを行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の管理表を作成しており、薬の目的や副作用、用法、用量等の把握や症状の変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し予防の為に水分補給や身体を動かさず働きかけている。個人の便秘のコントロールを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの説明と支援を行い、毎食後の習慣となるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌により、一日の食事が一目でわかる記入を実施。他にも体調に応じて食事等の量や形態に関しても職員の申し送りノートによりわかるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	流行する季節の前にインフルエンザワクチンの予防接種を全利用者に対して実施している。感染症に対してのマニュアルも施設内に準備し、対応の仕方についても一貫性がある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所及び食器洗いは職員が責任を持って手洗い、洗剤の管理もしており、食事や食材関連については専門の業者に委託しており衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	わかりやすい様入り口にホーム名を掲示し、入り口と玄関には季節の花を植え親しみやすく感じられる様工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間・日中共にダウンライトが常時点灯できるようになっている。各フロアには天井に窓が配置してあり、光が多く取り込める造りになっている。また、季節ごとにポスターやカレンダーを掲示、暮らしにメリハリをつけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアを自由自在に行き来できるようにしている。時間を拘束せず個々の時間を誰に対しても気兼ねなく過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を持ち込みいつものように安眠してもらっている利用者様もいる。仏壇、写真等も部屋に置き、心のよりどころとし、安心した生活をしてもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の際、必ず居室ごとに窓を一旦全開して換気し、廊下などにおいても同じく、室温なども数回チェックしている。冬場においてはホールに加湿器を設置する等配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりをつけ、手すり歩行が出来るようにしている。利用者様が座位・立位が安全快適にできる様ベッドの高さを自力的に調整できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各々に残された残存能力を理解し、利用者様が何に対して失敗するのか、不利な状況に陥るのかを理解した上で、自立の手助けを全スタッフで工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	当ホーム内に設置されている外庭や不定期的に散歩する機会を設けている。ホーム内周辺での散歩やレクを通して各利用者様が楽しめる空間を提供している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 入居者一人一人を尊重し日常生活が安心して暮らせるように支援しています。また、感情を共有しながら利用者本意のケアに職員全員で取り組んでいます。